

## 地域資源を守る『児島湖流域エコウェブ』の紹介

### (児島湖をご存じですか)

- 児島湖は岡山県南部に位置し、周辺の干拓農地の用水不足を解消するため、1959（昭和34）年に児島湾の奥湾を締切堤防によって締め切って造られた人工湖です。ダム湖を除いた人造湖としてはオランダのアイセル湖に次ぐ世界で2番目の広さを持ち、流域面積543.7km<sup>2</sup>、平均水深2.1m、有効貯水量は約1,800万m<sup>3</sup>（東京ドーム体積の14.5杯分）です。



金甲山より児島湖を望む

- 児島湖が誕生した頃から日本の高度経済成長が始まり、都市化の進行による周辺人口の増加と活発な産業活動等に伴って生ずる生活排水などが児島湖に流入し、児島湖の水質悪化が顕著になりました。1984（昭和59）年、湖沼水質保全特別措置法（湖沼法）が制定されると翌1985（昭和60）年、児島湖は琵琶湖、霞ヶ浦、印旛沼、手賀沼とともに水質保全計画を定める必要のある指定湖沼に指定されました。

### (児島湖流域エコウェブの誕生)

- 児島湖が湖沼法に基づく指定湖沼に指定されてから、岡山県において5年毎に湖沼水質保全計画が策定され、関係部署や関係者が協力して水質改善に取り組んできました。水質改善対策のうち公共事業によるものは1992（平成4）年～2006（平成18）年の間、農林水産省により児島湖の湖底に堆積した底泥の浚渫工事が行われたことが代表的なものでした。



児島湖に浮かぶ底泥浚渫船

- しかし、一度悪化した児島湖の水質や水辺の環境は公共事業だけでは改善できるものではなく、日頃から「水路や川にごみを捨てない」「家庭から出る生活排水をできるだけきれいに」などの身近なことを心掛け、水繋がりである児島湖を将来に亘って保全していかなければなりません。

- 近年、児島湖周辺にお住まいの方々の環境保全に対する意識の高まりに伴い、水質保全などを旨とする各種の市民活動が広く展開されています。

そのような中、**2003（平成15）年に**

**『児島湖流域エコウェブ』が発足し、幅広い市民、企業、行政のパートナーシップの下で児島湖流域における環境保全を目指した活動に取り組んでいます。**



- ✓ 『児島湖』は生物多様性を有する地域資源です。みんなの手で蘇らせましょう！
- ✓ 『児島湖』は県民の大切なお宝です。将来に亘って末永く守っていきましょう！

## (児島湖流域エコウェブ20年の歩み)

注：掲載している写真は活動の一部です。

■ 主体活動としてのフォーラムを計33回実施。児島湖にまつわる時々のテーマをもとに、ワークショップにより各世代の参加者が自由に議論し、環境保全に向けた意識醸成に努めています。



フォーラム第24回(H27.12月)



フォーラム第28回(H29.12月)



フォーラム第33回(R5.5月)

■ 他の団体が行うイベントなどに参加し、支援協力による活動の多角化と情報交流に努めています。



身近な水環境の全国一斉調査  
(H27.6月)



身近な水環境の全国一斉調査  
(H29.6月)



藤田ふれあい祭り(R1.11月)



岡大ほたる祭り(H29.5月)



児島湖流域清掃大作戦(R4.11月)



日本雑草学会シンポジウム  
(R3.12月)



七区小学校出前授業(H27.10月)

R4.11月の児島湖流域清掃大作戦のあと、参加者に無料で舞われた児島湖産の「テナガエビ」の唐揚げ。

～『児島湖流域エコウェブ』沖陽子会長から皆様へひとこと～

2003（平成15）年3月に本会が創立して、2023（令和5）年で20周年を迎えました。

今までフォーラム・全国一斉調査並びに清掃大作戦などの諸活動に鋭意取り組んでおり、これからも20周年を契機として更なる飛躍を目指すこととします。

当会の活動に関心のある方は、是非、当会にご入会して頂き、児島湖及び周辺地域の貴重な資源を一緒に守っていきましょう！

児島湖流域エコウェブ ホームページ <<http://www.kojimako-eco.net>>